



発行 北海道高等学校養護教諭研究会
事務局 北海道札幌北高等学校
〒001-0025 札幌市北区北25条西11丁目
TEL011-736-3191 FAX011-736-3193

<http://koyoken.satsukita.ed.jp/myks/hyousi.html>



「社会に開かれた教育課程の土台となるもの」

北海道高等学校養護教諭研究会

会長 大鐘秀峰

(北海道札幌北高等学校長)

平成28年度に入り、すでに1ヶ月が経過しました。各学校では新入生を迎えるとともに、健康診断を始めてしてさまざまな検査に追われていることと思います。この時期が養護教諭にとって最も忙しい時期であることは間違いありません。くれぐれもご自愛ください。

健康診断に関連しては、今年度から全学年での保健調査の実施や調査項目の追加（生徒の四肢の状態等）がありました。これまで以上に養護教諭を中心として、生徒、保護者、担任や部活動顧問、学校医との連携が求められることとなります。そこでは複数の目で生徒の健康を総合的に把握することで生徒の健康をより適切に把握し、それに基づいた対応が可能になります。養護教諭の一層のリーダーシップを期待しています。

さて、次期学習指導要領の改訂作業が進んでいます。この学習指導要領は、平成34年から年次進形で実施される予定のものです。今年度中に答申されることになっています。すでに昨夏に『論点整理』が示され、アクティブ・ラーニングとカリキュラムマネジメントの組み合わせが重要な柱として喧伝されています。特に前者への動きが目立っていて、さまざまな形になって高校に降りてきていて、教科を超えた広がりを見せています。

しかしながら、アクティブ・ラーニングにしてもカリキュラムマネジメントにしても、具体的な

技術・方法論に属するもので、それをさらに包含する考え方が用意されています。それが、「社会に開かれた教育課程」という理念です。次期学習指導要領は、学校での学習を学校内に閉塞させることなく、社会で生きる学力を身につけさせるために、教育課程を通して生徒の社会化を図ろうという意図が現れています。

社会との接続を目指す理念的な土台として、心身による人を含めた外界とのつながりが何より根本にあることを確認するべきです。人はまず心身で外界に触れ、世界を広げ、それによって自己を確立していきます。逆に言えば、心身の健康がなければ自分を社会に開いていくことが難しくなり、そのため自身を定立させていくことも難しくなります。ここに心身の健康と安全を目標とする学校保健の意義が見出されます。

学校教育において、知・徳・体のバランスの良い生徒の成長を願うとき、改めて教育課程実施上の土台となる心身の健康を考えるべきです。年度の始まりの変化の渦中にある生徒の心身の健康を第一に考えることが、入学や進級を果たした生徒に対して新しい環境への適応を援助します。大切なことはそのことに生徒自ら気づけることであり、そのための保健教育の一層の充実が求められるのです。

第31回 研究協議会のご案内



【開催日】 平成28年7月25日（月）・26日（火）

【日程】

25日 (月)	12:30 13:00 13:20 15:20 15:45					26日 (火)	9:15 9:30 10:00 11:30 12:00 13:20 15:20						
	受付	開会式	講演1		地区幹事会			受付	総会	研究発表	情報提供	昼食	講演2

【場所】

北海道札幌北高等学校記念館 彩風館 〒001-0025 札幌市北区北25条西11丁目 電話(011)736-3191

＜交通機関＞

- ・地下鉄南北線北24条駅
1番出口より徒歩15分
- ・JR学園都市線新川駅より
徒歩18分

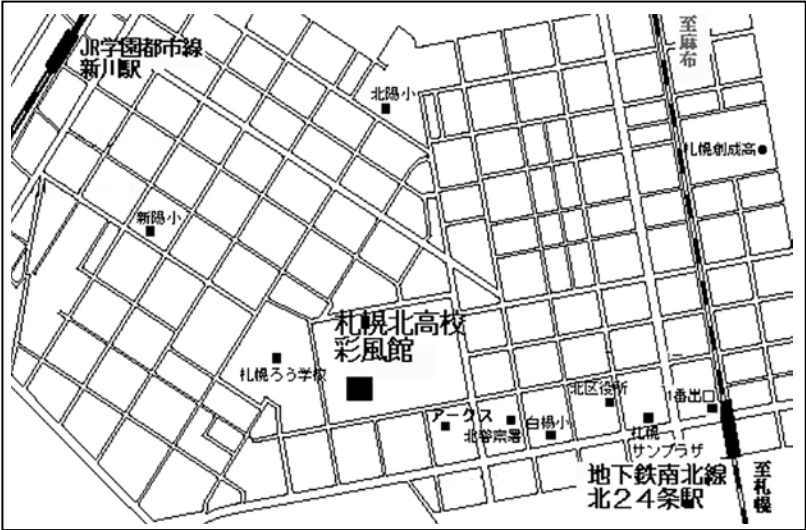
※駐車場がありませんので、車での
ご来場はご遠慮ください。

【昼食】

26日（火）の昼食は、25日（月）
の受付横で、お弁当の引換券を販
売しますので、ご利用ください。

【参加対象】

北海道高等学校養護教諭研究会会員



※会場の収容人数の都合上、事前にお申し込みいただいた方へのみの参加となります。

《第1日目》

講演 1

「思春期のてんかんの診断と治療
＝色々な発作、生活上の留意点、周囲のかかわり方＝」

講師 札幌医科大学医学部脳神経外科 越智 さと子 氏

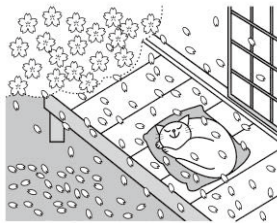
てんかんは、概ね100人に一人が罹患する身近な病気で、脳の機能に影響します。思春期に多いてんかん型を主に色々な発作型を動画で紹介、スポーツをふくめ日常生活上の留意点、周囲のかかわり方、診断、治療の概要を説明します。また、将来の就労や運転、妊娠出産など女性特有の問題への対応のし方、社会的支援、WHOの取り組み等も紹介し、学生の健康を守る養護の先生方にこの病気の理解を深めていただきたいと思います。

【略歴】

昭和62年札幌医科大学卒業。脳神経外科入局、苫小牧王子病院、新さっぽろ脳神経外科病院脳神経外科医長を経て、平成3～4年 USA Yale大学神経学、神経科学研究所に留学、主にGABAと神経発達、てんかんに関する研究に従事。帰国後、脳神経外科臨床に戻り、札幌医科大学、市立札幌病院、道立子ども総合医療療育センター、コドモックルを経て、平成13年より現職。主に、てんかん機能外科診療に従事している。
資格：日本脳神経外科専門医、てんかん専門医、日本内視鏡学会技術認定医
2児（高校生、大学生）の母、絵本児童文学研究センター正会員

【著書・出版物】（分担執筆）

- 「症例から学ぶ 戦略的てんかん診断・治療」 池田 昭夫編集 南山堂 2014
- 「脳神経外科診療プラクティス8 脳神経外科医がよく診る神経疾患における薬剤の使い方 2. てんかん」
- 「脳神経外科診療プラクティス7 デジタル脳波 全般性てんかん」その他



《第2日目》

講演 2

「性の多様性の理解と学校における対応」

講師 渋谷区男女平等・多様性社会推進会議委員

特定非営利活動法人 東京レインボープライド 代表理事 杉山 文野 氏



13人に一人の割合と言われるLGBT（性的少数者）。これは左利きや血液型AB型の人たちとほぼ同じ割合とも言われており、40人クラスならば3人はLGBTの子どもがいることになります。2015年春、文科省がLGBTの子供について配慮を求める通知を全国の国公私立の小中高校などに出すなど、教育現場においてもその関心が高まっています。

まだまだ誰にも言えない悩みを抱える当事者たちが沢山いるのも事実です。実際に、学校で講演を行う度に、私の元には生徒から「自分もそうだが誰にも言えない」「友達からカミングアウトされたが、どう対応してよいのかわからない」といったメールが届きます。本テーマでは、性同一性障害である自身の経験と知識をもとに、性の多様性と学校におけるLGBTに対する配慮、当事者からカミングアウトを受けた際の対応などについてお話させていただきます。

【略歴】 NPO法人ハートをつなごう学校代表

トランスジェンダー、1981年東京都新宿区生まれ。フェンシング元女子日本代表。早稲田大学大学院にてセクシュアリティを中心に研究した後、その研究内容と性同一性障害である自身の体験を織り交ぜた『ダブルハピネス』を講談社より出版。韓国語翻訳やコミック化されるなど話題を呼んだ。卒業後、2年間のバックパッカー生活で世界約50カ国＋南極を巡り、現地で様々な社会問題と向き合う。帰国後、一般企業に3年ほど勤め、現在は自ら飲食店を運営するかたわら、日本最大のプライドパレードである特定非営利活動法人東京レインボープライド代表理事、セクシュアル・マイノリティの子供たちをサポートするNPO法人ハートをつなごう学校代表、各地での講演会やNHKの番組でMCを務めるなど活動は多岐にわたる。日本初となる渋谷区・同性パートナーシップ条例制定に関わり、現在は渋谷区男女平等・多様性社会推進会議委員も務める。

【著書・出版物】 「ダブルハピネス」（講談社）

研究発表

「地域とともに取り組む保健指導

～明日の根室を支えていく生徒の育成を目指して～

発表者 北海道根室高等学校 佐々木 真夕 氏
北海道根室西高等学校 小向 ゆみ子 氏

少子高齢化が進む中、北海道最東端の町、根室市で、それぞれの役割を果たしてきた根室高校と根室西高校が統合され、伝統と特色を引き継いだ新しい学校へと生まれ変わります。

根室市は「根室の子どもは根室で育てる」という気概に溢れており、性の問題や生活習慣病予備軍が心配な食生活の問題、特別支援を必要とする生徒に対して等、これまでも両校の教育活動において、地域の方々に多大なご協力をいただけてきました。

さらに根室市では、幼小中高と子どもを取り巻く関係機関の連携を強化する新たな取り組みをスタートさせました。私たちも統合に向けた準備を行う中で、保健指導においても、それぞれの実践をより良いものに“統合”すべく模索しているところです。今回、これまでの両校の実践について改めて検証し、今後の課題、そして地域とともに歩む今後の方向性についてまとめました。ご参加される先生方の貴重な助言・示唆をいただきたいと思います。

情報提供・研究発表助言者



「学校保健の課題とその対応」

北海道教育庁学校教育局健康・体育課学校保健・体育グループ

島瀬 史子 氏

ホームページを
ご利用ください。ホームページ委員会より
ホームページアクセス方法

研究会の様子などがご覧になれますので、どうぞご利用ください。

【アドレス】 <http://koyoken.satsukita.ed.jp/myks/hyousi.html>

このホームページから、北海道教育委員会、北海道教育研究会、全国養護教諭連絡協議会、文部科学省のホームページへもリンク出来ます。



研修報告

「全国養護教諭連絡協議会第21回研究協議会に参加して」

北海道小樽桜陽高等学校 養護教諭 葛西 薫 氏

「時代の変化に対応した養護教諭の役割を追求する～専門性の確立と実践力の向上を目指して～」を主題として全国養護教諭連絡協議会第21回研究協議会が東京のメルパルクホールで開かれました。今回初めて参加してきましたが、特別講演では、ハードルを超える～自己実現のための一歩として～という内容で話されました。オリンピックメダリストの為末氏が日本の文化としては「できないことをできるようにする。弱点を克服することによって強くなっていく。」という考え方がありますが、「全部頑張るのは難しい、できないことはあきらめてできることをやってもいいのではないか」と思うようになったというのです。そして、自分でコーチをすること、失敗を乗り越えること、人生ととらえなおすことを考えて競技を続けていった。オリンピックで転倒して自分を見失い、トラウマをかかえた。しかし、海外遠征をしていく中で失敗の意味が変わっていき、自信を持てるようになっていったそうです。その後34才まで現役選手を過ごし、現在は様々な活動をして「子ども達に運動を好きになってもらいたい」と思っているとのことでした。

続いて文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課健康教育調査官 岩崎信子氏から学校保健安全法施行規則の一部改正についての話でした。28年度からの健康診断に関わっての改訂された部分の話でした。新しいことを言っているわけではなく、今まで論議されてきたことなので、マニュアルを熟読し、保護者・学校医・養護教諭を中心として学校全体で実施してほしいということでした。

フォーラムのコーディネーターは、埼玉大学教育学部学校保健学教授 戸部秀之氏で養護教諭の専門性とは、養護教諭の多様な役割を確実にするために児童生徒の心身の健康状態を適切に判断するための「観察力」、心の健康問題等に対応するための「カウンセリング力」、連携して課題に対応するための「連携力、調整力」、人間関係の基礎となる「コミュニケーション力」、適切な情報を集めて発信するための「情報収集・処理能力、情報発信力」、専門知識を保健教育や研修に生かすための「指導力」、組織的な活動を推進する「企画力・実行力」未知の課題に対応するための「研究力」などであると言っています。

実践発表は4本あり、「組織的に取り組む健康相談」、「保健室登校の事例を通して」、「危機管理における養護教諭の役割として食物アレルギーの対応について」、「学校環境衛生活動について」それぞれ発表されていました。

様々な実践を聞き、改めて養護教諭の役割は多岐に渡っていること、校内組織はもとより校外での関係機関との連携のためのキーマンとしての役割としても重要な位置にいることを考えさせられた研究協議会でした。私にとってとても勉強になりました。



事務局連絡

今年度は次のメンバーで運営していきますので、よろしくお願いいたします。

平成28年度北海道高等学校養護教諭研究会 役員名簿

会 長	大鐘 秀峰	北海道札幌北高等学校	事務局員	関 澄恵	北海道札幌北高等学校
副 会 長	齊藤 淳子	北海道野幌高等学校		笹谷 幸	北海道札幌南陵高等学校
事務局長	滝川 智子	北海道札幌西高等学校		中道真由美	北海道札幌白石高等学校
会 計	鈴木 郁子	北海道北陵高等学校		上村 元美	北海道札幌手稲高等学校
事務局次長	岡 香	北海道札幌月寒高等学校	顧 問	阿部 正行	北海道千歳高等学校
事務局員	佐藤 弘美	北海道札幌工業高等学校		渡邊祐美子	北海道平取高等学校

平成28年度北海道高等学校養護教諭研究会 地区幹事名簿

石 狩	佐藤 恵子	北海道千歳高等学校	宗 谷	十川 光穂	北海道浜頓別高等学校
道 南	長野喜美子	北海道八雲高等学校	オホーツク	村上 静香	北海道小清水高等学校
後 志	佐々木良子	北海道小樽商業高等学校	釧 路	鈴木 祥子	北海道釧路北陽高等学校
空 知	坂本 喜久	北海道新十津川農業高等学校	日 胆	伴野 美穂	北海道登別青嶺高等学校
上 川	久保 佑美	北海道剣淵高等学校	根 室	佐々木真夕	北海道根室高等学校
留 萌	宇野 芙美	北海道天塩高等学校	十 勝	浅見喜代美	北海道更別農業高等学校